

●今年最後の中聖牛の取組始まる

京都大学防災研究所 宇治川ラボラトリー
28日は太陽が顔を出した陽だまりは少し暖かでしたが、時折雪が舞う寒い天気でした。2日間で中聖牛を組み上げようとの計算で挑んでいただきましたのは播川、森島、有田、大村、太田、篠原さんたち6名でした。それに京都大学から竹門先生などを加えた10人ほどで頑張りました。4日は京都木津川マラソンの前日準備で、5日は約4000人が集う京都府下では一番伝統があるフルマラソンが開かれるので、その要員として里山の会のほとんどの皆さんが集結することになります。



●29日（日） 中聖牛 組みあがる

昨日に続いて寒波が押し寄せている厳しい寒さが続く一日でしたが、皆さんしっかりした防寒対策をして参加していただきました。9時30分には取り掛かり今日いちにちで作り上げるのだぞとの決意で昨日に倍した決意で取り組み、寒さもなにをするものぞと頑張ってくださいました。参加していただいた中には親子連れ4人で応援していただきました。夕方3時には組み上がりました。次は4日と5日に栗石の詰め込みを残すのみとなりました。4日は人海戦術で石を竹蛇籠に入れなくてはなりませんので、手すきの皆さんの応援をお願いします。作業は午前10時に開始しますのでよろしくお願いします。終了時間は集まっていた人数にもよりますが、12時過ぎには終了できるのではないかと思います。沢山のお越しをお待ちします。一人でも多くのご参加をお願いします。京都大学防災研究所の正面玄関に立派なモデルができあがることになります。あなたもこの記念すべきイベントの一員としてご参加ください。お越しをお待ちしています。



●1月29日 前日全国から竹林景觀ネットワーク第30回研究集会が開催され参加者のうち21人が木津

川で取り組んでいる玉水浜に設置した中聖牛と竹蛇籠見学に訪れていただきました。これはカワガキたちが楽しみにしている木津川の魚が少なくなっているのを魚の住みかづくりから始まった取り組みで、武田信玄などが日本で取り組んだといわれている災害対策（伝統河川工法）だそうで、技術の伝承を受け継ごうと里山の会が取り組み、京都大学防災研究所の竹門康弘先生の指導を受けて、やっと自力で作り上げることができるようになりました。現代の川普請です。



●竹ペン製作で関西後記連合事務局に説明 近畿エコネットの仲介で滋賀県庁で実施 木下勉、山村が参加

今日（27日）は雪が降らないだろうとタカをくくっていたら10時過ぎから猛烈に吹雪出しました。少し気になりましたが木下氏は大丈夫だとの言葉で11時に出発しました。約束の13時前に到着予定でしたが一般道でしたのでぎりぎりに滋賀県庁に到着出来ました。昼食を食堂でと思っていた



ましたが、時間がなく昼食抜きで近畿エコネットの正阿彌さんと落ち合い、早速関西広域連合の広域環境保全局環境政策課の平井雄也さんに説明をしました。ざっと経過を説明した後いま最も悩んでいるのは竹割機（四角に竹を割る、または丸型）が手に入らないことですと課題を説明しました。平井さんから企業とドッキングできる催しが計画されているから、その折にドッキングされたらとの助言をいただきました。また正阿彌さんからもこうした意欲を持った企業を探しましょうとのことでした。そのほか県職員の間野智也氏を訪ね同様の説明をさせていただきましたところ、できるだけ協力しようとの返事をいただきました。同行していただいた木下さんはこの日のために奥井様と夜通し工夫を凝らし楽しい鉛筆入れを千代紙で作っていただき、印象を大変良くしていただきました。木下さんはこの取り組みはどうなるのかなと半信半疑のお付き合いをされ不安を感じておられましたが、本日の行動で少し不安が取り除けたとおっしゃっていました。具体的にはこれからですが、作ってみる価値があることに自信がわいたようです。不安の中・雪の中での行動でしたが大変ご苦労様でした。

●2023年の大寒は20日から始まり25日には積雪や道路の凍結が続きました

28日に事務所に出勤する途中田辺高校前の防賀川を超えたところで自転車で転倒しました。西側から来た自動車と西に向かっていた自転車の方に助けていただきました。気を付けていたのですが橋を渡り切る前での出来事でした、約1年ぶりの転倒で臀部を強打しました。後遺症が残る右手小指にかすり傷で済みました。今日は京大での中聖牛の組み立てなので気が焦っていたのでしょうか、また、路面凍結に気を付けていたのですが不覚でした。13:30分からNアカの研究会（京都・三条）なので集中できていなかったのだと思います。

●農園で越冬しているキタキチョウ雪にも負けずに生存

先週のニュースで草むらで越冬していることをお知らせしました。ところがその後、8cm程の雪が降り積もり、雪の下になり多分死んだのではと思っておりましたが、1週間後に見たところ3匹とも笹の葉や草に止まり異常のないことが分かり、ホッとしその生命力に感心しているところです。

モンシロチョウは蛹、オオムラサキやゴマダラチョウは幼虫、ミドリシジミは卵で冬を越しますが、このキタキチョウは成虫のままで越冬します。



●小川芳也さんの松江通信 No. 18

今週は、24日（火）午前中から降り続けている大雪に関する情報をお送りしたいと思います。

この冬1番の大寒波と言われていたので、天気予報が外れてくれるといいな〜と期待していたのですが、願い叶わず24日午前中から降り始めた大雪によって松江高専周辺は昼頃には真っ白な雪化粧になりました（写真は25日）。同僚によると、松江の市街地は山陰地域の中でも雪が少ない方で降り積もっても午後には溶けていることが多いということでした。確かに、今年の冬（2021年から2022年にかけて）の松江高専周辺はそうでした。日本海側の海沿いなので山陰道（国道9号線）も大丈夫だろうと鳥取方面に向けて走行したとき、隣の安来市や米子市、その隣の大山町や鳥取市には雪が残っ



ていたことから松江は雪が積もりにくいと思ったものでした。こんな大雪は10年ぶりじゃないかなということでしたが、インターネットで検索してみると2018年（平成30年）、2011年（平成23年）が大雪だったようなので数年ぶりのようです。この続きは次回に…

●太田敏之さんの小笠原旅行日記 ～4日目 2022年11月29日 火曜日～

この日は母島の往復と母島で過ごす1日です。朝食を早くとり乗船場に向かいました。ははじま丸の出港は7時半、2時間の船旅で母島に到着です。昨夜予約しておいたレンタルバイクを借り、南下して都道最南端の場所でバイクを置き、ここから徒歩で母島最南端の小富士へ向います。ガイドブックなどでは徒歩で50分から1時間のところを35分で到着。360度の眺望ですが、まあこんなもんでしょうか。南崎の浜がとてもきれいでした。その後、母島の中心部に戻り昼食、島唐辛子カレーを食べました。母島で食事を取れる場所はこの「メグロ」と「大漁寿司」の2カ所のみです。どちらも入り口が閉まっていて入りにくい感じです。

食事後一路北行、北端の北港まで行きましたが何もない港跡です。30分のバイク走行ですが1台も車やバイクに出会いませんでした。その後、北村小学校跡と東港を見て急いで帰ります。帰りは3台の軽自動車に会いましたが、アップダウンやカーブの多い1車線半の道はなかなか走りにくいものでした。午後1時半バイクを返却して、2時出航のははじま丸に乗って父島に4時に戻りました。船上では、カツオドリがすぐ近くまで飛んできて良い写真が撮れました。

父島と母島の距離は50Kmですが、片道5,330円の船賃はなかなか高いものでした。レンタルバイクは4時間で4,000円。